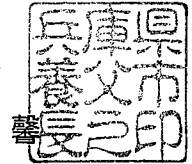


養 建 第 4 5 3 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

養父市長 梅 谷



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあった標記のことについては、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

兵庫県養父市

道路は、市民生活や地域経済・社会活動を支えるための最も基礎的な社会基盤整備であり、広域的な地域間連携、文化交流、活力ある地域づくり、安全・安心な環境づくりを推進するために必要不可欠である。

こうした中、国においては、「道路特定財源の見直しに係る具体策」を閣議決定し、道路特定財源の暫定税率を含め現行の税率水準を維持しつつ一般財源化を前提に見直すこととされ、一部では暫定税率廃止論まで出て来ています。一方で地方においては、必要な道路整備の推進等を図る上で、これまでも道路特定財源のみならず、やむを得ず多額の自主財源を充当しているのが現状であり、今後も地方の実情や意見を十分に踏まえ、道路の整備に必要な財源を安定的にかつ十分に確保され、道路特定財源については、受益者負担の原則に基づき道路に係る支出に限定するとともに、遅れている地方の道路整備及び計画的修繕・更新と地方公共団体も主体的に道路整備・健全な維持管理が行えるよう道路特定財源の地方への配分割合を高めて頂くよう要望する。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

兵庫県養父市

○現状

兵庫県養父市は、県北部の但馬地域の中央に位置し、交通条件としては、京阪神と山陰地方を結ぶ主要な地域幹線道路である国道9号が東西に、姫路方面と山陰地方を結ぶ国道312号が南北に交じり合う国土幹線道路の要衝となっている。

しかし、これらを補完する道路ネットワークを構成する一般国道や県道、市道の整備は十分ではなく、広域的な通過交通と日常的な交通が輻輳し、渋滞や交通事故が多発している状況にある。

また、平成16年の台風23号の時は、山崩れや路面冠水等が各地で発生し、但馬北部への連絡道で国道312号が唯一辛うじて冠水を免れ通行出来たが、崩壊寸前の状態であった。

現在、北近畿豊岡自動車道(和田山・八鹿道路)に工事着手しており(八鹿日高道路・日高豊岡南道路)が調査、設計が行われている。

○課題

円滑で快適な交通及び歩行者の安全な通行を確保するため、幹線道路及び生活道路の早期整備が喫緊の課題であり、遅れている地方の道路整備を円滑に推進し、適切な維持管理を図るためには安定的な財源が必要である。

また、東京都とほぼ同じ面積の但馬地域は、第3次救急医療機関が豊岡病院のみであり、殆どの地域が搬送30分圏外であり、救急医療に支障を来している。少子高齢化が進んでいる地域であるため、搬送時間が短縮されて安心の範囲を広げることが必要となっている。

更に災害時の代替路の確保も急務である。

②-2 地域の目指すべき将来像

養父市は、これまで4町で行ってきた施策を踏襲しながら、豊かな自然や遺産を有効に利用した「まるごと自然～但馬中央の郷 養父市」を目指している。

「まるごと自然」は、養父市の最大の地域資源である豊かな自然資源を活かした、まちづくりを意味する。雄大な自然、景観を実感できる県下最高峰の氷ノ山を観光シンボルとして、また、地球温暖化防止対策の一環として森林資源が重要視されつつあること、水資源の環境保全に地域住民と連携した活動を進めるべきという考えが普及しつつあること、豊かな自然が地域活性化のための資源として評価されていること、広葉樹林の再生が安全なまちづくりにつながるとの認識を持ち、その輪を広げ自然環境保全に配慮しながら養父市の特性・自然を活かした産業の再生・育成を図り、環境に優しく災害にも強い安全なまちづくりを目指している。

「但馬中央の郷」は、豊かな自然とともに数多くの歴史・文化遺産を活用することで、都市と農村との交流拠点、地域間の交流拠点を目指すことを意味している。

今後、高速交通ネットワークに組み入れた新しい道路整備を行うことで、交流拠点を結び、更なる交流の促進、観光、農林業、商業の振興、地場産業の再生、新しい産業の創造、雇用の確保などを図ることを目指している。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

兵庫県養父市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・高速道路を組み入れた道路ネットワークの整備 (北近畿豊岡自動車道)(鳥取豊岡宮津自動車道) (観光事業交流の道 主要地方道養父小代線) ・生活道路、通学道路の道路拡幅、自歩道の整備 (国道9号・国道312号の歩道整備) (生命の道 主要地方道養父穴栗線南谷地域)	・豊かな自然と、その恵みに培われた観光支援、観光客の利便性の向上、アウトドアスポーツ需要の増加 ・新規企業参入及び地場産業の付加価値や生産性も上昇、雇用の促進と経済の活性化 ・交流拠点を結び、更なる交流の促進、観光、農林業、商業の振興、地場産業の再生、新しい産業の創造、雇用の確保 ・緊急車両の進入出来る生活道路を整備し災害対応と搬送時間等を短縮し生活の安全性の確保 ・通学道路を優先して、歩道、自転車道を整備し、園児、児童、学生、高齢者等弱者の通行を確保し安全性の向上	